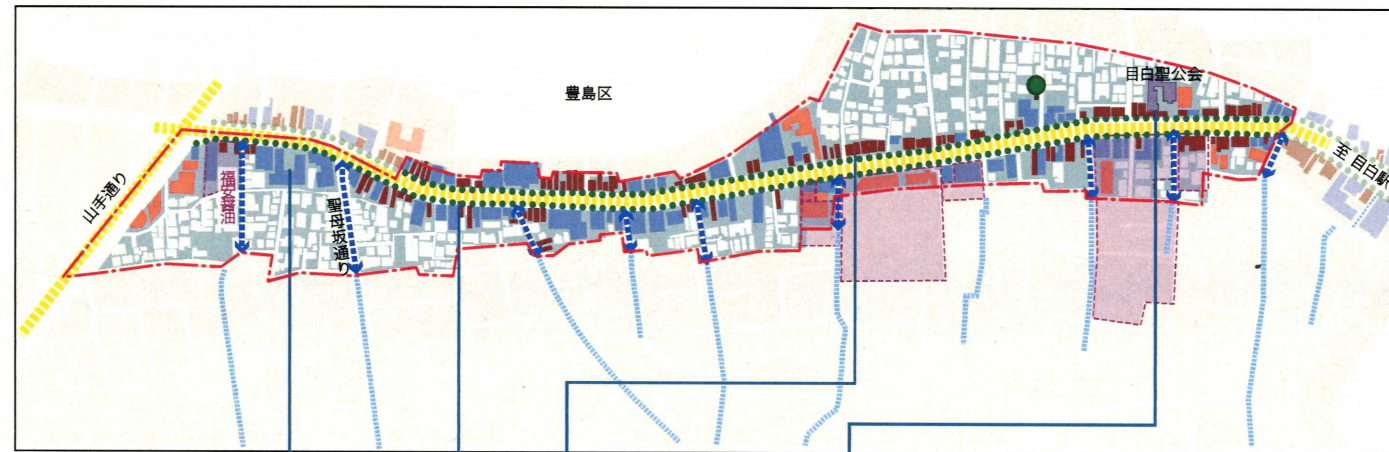


# 7-1 目白通り沿道エリア

江戸時代から続く目白通りを中心に、古くから市街化されたエリアです。目白駅の開通した明治時代以降からその集積は更に進み、戦後には商店街が形成されました。現在でも、小規模な店舗が建ち並び、歩行者の往来も多く、賑わいのある風景となっています。



## 景観特性



エリア西側では、近年敷地が統合され、スケールギャップの大きなまちなみ景観となっている場所もあります。

等間隔で並ぶ銀杏並木が、まちなみのシンボルとして調和のあるまちなみ景観を創出しています。



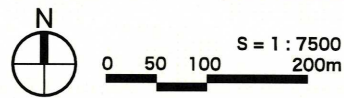
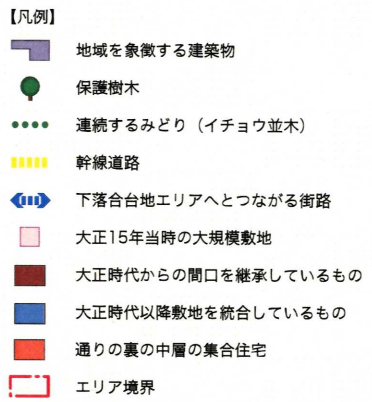
銀杏並木

### 目白聖公会



昭和4（1929）年竣工。目白通り沿いのシンボルです。

古くからの街道筋であり、昔ながらの間口の小さな敷地割りが現在でも継承されています。



## 1. 小規模な店舗の連なり



目白通り沿いは間口の狭い敷地が継承され、小規模な店舗の連なる賑わいあふれる景観となっています。中には、看板建築<sup>注</sup>などもわずかながら残っており、古くからの街道の記憶を感じさせます。

注) 看板建築: 看板状に正面を大きく見せる商店建築

## 2. 銀杏並木との調和



銀杏並木は目白通りの重要な景観資源となっています。幹線道路の沿道景観に潤いを与えるとともに、周囲の建築物を適度に覆い隠す役割を果たしています。

## 3. 目白通り沿いのスケールギャップ



近年では敷地の統合などにより、目白通り沿いに高さや規模の異なる建築物が混在しています。高層かつ大規模な建築物が周囲に与える影響は大きいため、圧迫感の軽減を図ることが必要です。

## 景観形成の目標

# 銀杏並木と賑わいをいかした幹線道路沿道のまちなみへ

古くからある通りであり、周辺居住者の生活の場でもある目白通りを中心に、銀杏並木の潤いと低層部の賑わいをいかした沿道景観をつくる。

## 景観形成の方針

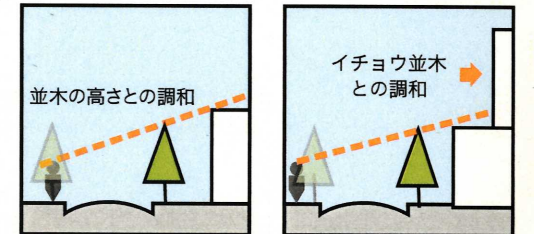
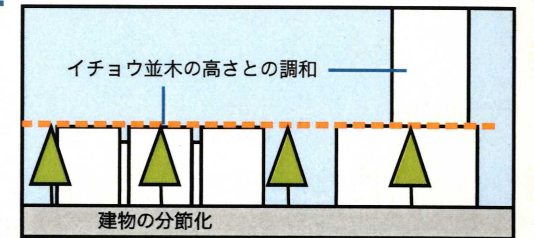
### 1. 銀杏並木と低層部の賑わいをいかした沿道景観をつくる

#### 景観形成の考え方

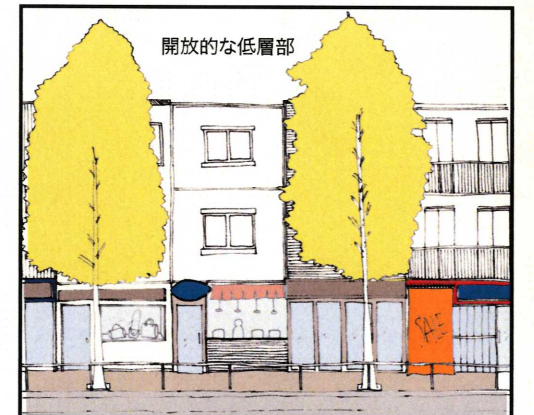
周辺居住者の生活の場でもある目白通りにおいて、景観資源である銀杏並木と、低層部に連なる商店をいかし、歩く人に快適な潤いと賑わいをつくる。

#### 具体的な方策

- 銀杏並木の高さと調和した形態意匠とする
- 壁面の位置を揃え、周囲と調和を図る
- 間口は現在の規模を継承するか、もしくは、分節化を図る
- 低層部は、賑わいを感じられるような開放的な意匠とする
- 夜間景観にも配慮し、シャッターは透過性の高いものとする
- 夜間景観に配慮した照明計画とする



銀杏並木との調和



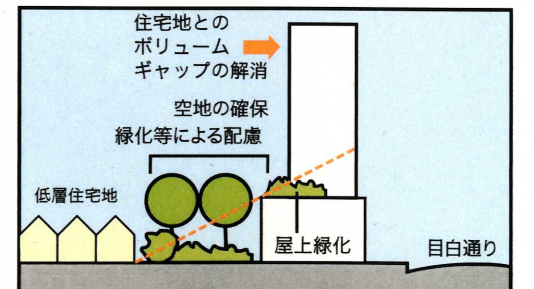
### 2. 後背の住宅地との調和を図る

#### 景観形成の考え方

周辺は第一種低層住居専用地域であり、大規模な沿道の建築物は周辺住宅地の住環境への影響も大きい。そのため、住宅地への影響に配慮した計画とする。

#### 具体的な方策

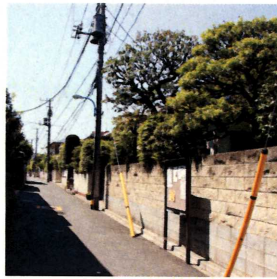
- 色彩や素材は、周囲の落ち着いた雰囲気と調和したものとする
- 壁面の分節化を図り、長大な壁とならないように配慮する
- 住宅地とのボリュームギャップを解消する（住宅地側は階数を減らす、屋上緑化をするなど）
- 住宅地側には空地をとり、積極的に緑化する



後背地（低層住宅地）との調和

# 7-2 下落合台地エリア

斜面緑地の北側に広がる台地上に位置する、閑静な低層住宅地のエリアです。かつては農地や、大邸宅地であったところが多く、特に近衛邸や相馬邸などのあった場所は、豊かなみどりとゆとりある敷地規模により、良好な低層住宅地のまちなみとなっています。古くからの農道が主要な道路として残っており、奥行きと変化のある景観となっています。



## 景観特性

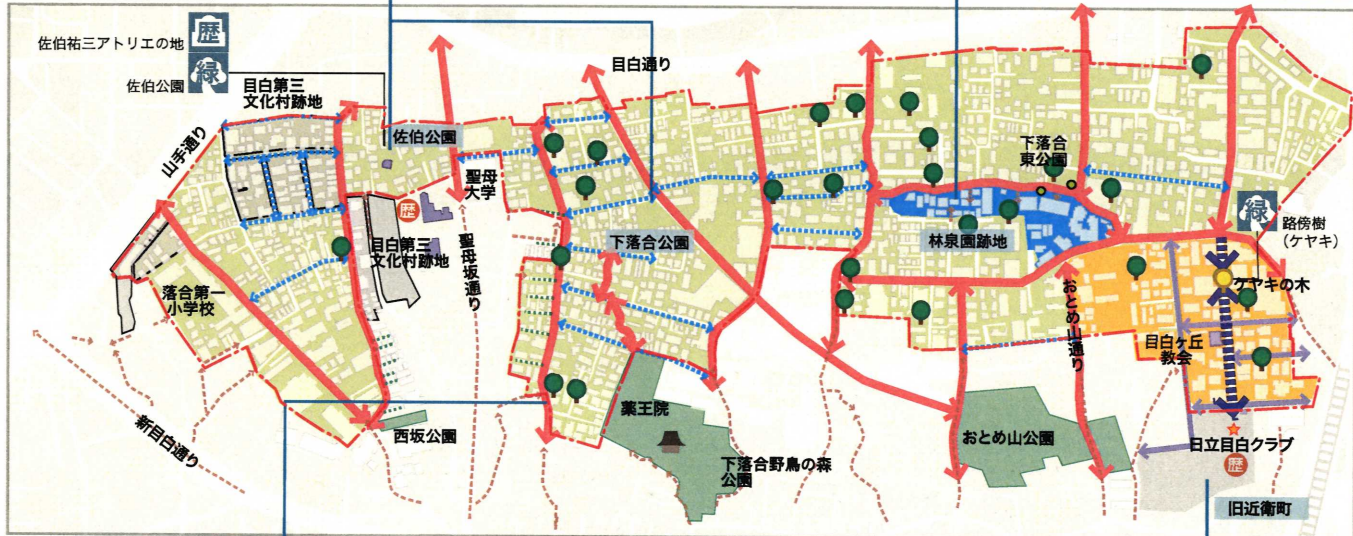
- 【景観資源】(区指定文化財等)
- 緑(樹木等)に関わる資源
- 歴 歴史に関わる資源

このエリアでは、かつての大きなお屋敷やアトリエ跡地を公園として利用している場所がいくつか見られます。



### (旧) 林泉園

谷地となっているこの場所は、明治時代に相馬家が回遊式日本庭園「林泉園」として一部を一般に開放していました。周囲からやや下がった地形のため、まとまりのある景観となっており、かつての桜並木を偲ばせる桜も残っています。



かつての農道である南北に貫く道路は何度も左右に曲がり、道路景観を変化と奥行きのあるものにしていきます。

### (旧) 近衛町

明治時代に相馬邸と分割された近衛邸の敷地では、大正時代に近衛邸の軸線を受け継ぐ計画的敷地割りの宅地分譲が行われました。現在でも、近衛邸内のけやきの木が残され、その軸線上のアイストッの位置に日立目白クラブがあります。



## 1. 豊かなみどりとゆとりを受け継ぐ住宅地景 2. 変化と奥行きのある景観 3. お屋敷町の歴史



昭和初期からのモダンな邸宅と豊かな木々による良好な住宅地のまちなみは、今も変わらず受け継がれています。景観資源となる古くからの樹木や生垣が至るところに見られ、連続的なみどりがあふれています。



明治後期までは農村であり、また、戦災の影響も少なかったため、古くからの農道がそのまま残っています。低地と台地をつなぐこれらの道路は、ゆらゆらと左右に何度も曲がり、沿道の建築物とみどりが折り重なる景観を生み出しています。



旧近衛邸である計画的住宅地(旧近衛町、日立目白クラブ)、旧相馬邸の庭園(林泉園、おとめ山公園)等、お屋敷や大規模敷地を基にした場所が多く、現在でもゆとりある景観が受け継がれています。かつてのお屋敷やアトリエであった場所で、公園となっているものもあります。

## 景観形成の目標

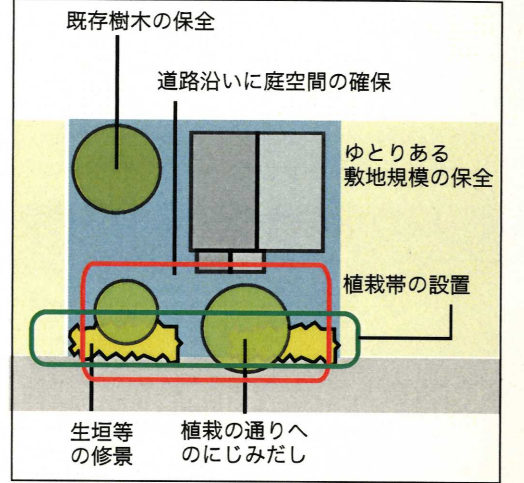
# 豊かなみどりとゆとりが感じられるまちなみへ

落ち着きとゆとりのある低層住宅地が広がる景観を保全するとともに、景観資源をいかした魅力ある景観を創出する。

## 景観形成の方針

### 1. 豊かなみどりとゆとりのあるまちなみを保全する

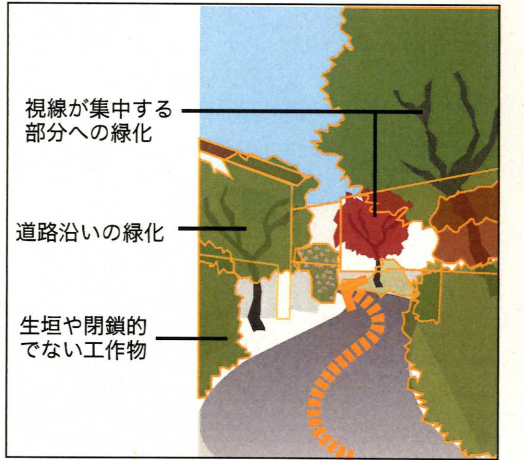
- 景観形成の考え方**  
昭和初期からのお屋敷を中心とした、敷地規模も大きくみどり豊かなまちなみを将来にわたって継承する。
- 具体的な方策**
- ゆとりある敷地規模を保全する
  - 景観上重要な既存樹木を保全する
  - 道路沿いには空地をとり、植栽帯を設ける
  - 壁面の分節化を図り、長大な壁とならないように配慮する
  - 樹木の生育環境に配慮し、透水面を確保する



ゆとりへの修景集

### 2. 曲がり道のみどりあふれる景観を保全、創出する

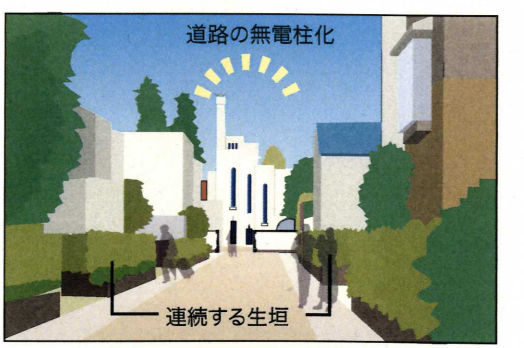
- 景観形成の考え方**  
かつてからの農道を基にした曲がりの多い道路は、本エリアの特徴となっている。この道路を中心としたみどり豊かな景観を創出する。
- 具体的な方策**
- 外壁の素材や色彩は、周囲の落ち着いた雰囲気と調和したものを使用する
  - 垣・さくは高さを抑え、生垣や閉鎖的でないものとする
  - 視線が集中しやすい坂の折れ曲がり部分などでは、積極的に緑化を行う
  - 道路沿いは積極的に緑化する



曲がり道の修景

### 3. 旧近衛町周辺の落ち着いた景観を保全、創出する

- 景観形成の考え方**  
エリアの景観を特徴付けている旧近衛町の周辺では、日立目白クラブや道路の中心にある路傍樹(ケヤキ)、目白ヶ丘教会などと一体となった良好な景観を保全する。
- 具体的な方策**
- 日立目白クラブへ向かう道路沿いでは、まちなみの連続性に配慮し、圧迫感のない落ち着いた形態意匠および色彩とする
  - 日立目白クラブに向かう道路沿いでは、連続した生垣とする
  - 道路の無電柱化を推進する
  - 周囲の雰囲気とふさわしい道路の舗装を検討する



旧近衛町のまとまりある景観形成

